

アニメーション animación

商標登録 第 5139682 号

特定非営利活動法人日本アニメーション協会
商標登録 第 5139681 号

会報 4 号

2009年6月13日(土)発行

編集人/塚本 美樹 発行人/黒木 秀子

〒274-0825 千葉県船橋市前原西 2-21-8 松沢ビル 2F
TEL 047-402-3111 E-mail info@animacion.jp
FAX 047-402-3061 URL http://animacion.jp/

アニメーション勉強会1000回の感謝

黒木 秀子

毎月第二土曜日の午後、真生会館（東京・信濃町）で開いているアニメーション勉強会が、この六月度で第一〇〇〇回を迎えます。

二〇〇一年三月の第一回目から八年四か月の月日が流れました。長い年月、アニメーションを学びたいというお気持ちひとつで勉強会を作り上げてきてくださった皆様、本当にありがとうございます。

とにかく無我夢中で始めた会

振り返ると、人生の大きな出来事でも、どうも一番肝心な一点についてだけ記憶が飛び去っている。．．．ということがあつたのです。アニメーション勉強会に際しても「月例勉強会という発想はどこから生まれたんだっけ？」といくら思い返してもはつきりしません。

憶えているのは、二〇〇〇年の暮れ頃に、アニメーションを日本へ紹介なさった佐藤美智代さんと私とで「日本のカトリック教会の中でアニメーションを実施していきたいわねえ」と話し合ったこと。そこで、まずは、カトリックの施設である真生会館でアニメーションを学ぶ会を作れないか、と考えたのだと思います。それについて、「真生会館学習センター」「同聖書センター」などで会を主催していただけないかと思ひ、司教様や神父様にお願ひに上がったのも、今となれば懐かしい思い出です。

真生会館のプログラムにはできませんとのお返事でしたので、それなら私個人が主催しようと思ひました。

第一回は『雪の女王』

予読の本を指定して、みんなアニメーションを体験する会にしようという考えに迷いはありませんでした。そこで、頭をひねった挙句、第一回の予読本をアンデルセン『雪の女王』に決めました。理由はふたつ、ありました。

ひとつは、このころ私は、アニメーションのためにそれが必要だと考えてアンデルセン童話を再読してしました。その中で、雪の女王のイメージが後の児童文学に多くの影響を与

どなたが来ても良くて来なくても良い会

勉強会の基本ポリシーです。「来る者を拒まず、去る者を追わず」というのとちよつと似ていますが、ちよつと違います。勉強会を継続させていくことに気づき、改めて驚きました。特に、ナルニア国物語の白い魔法は、雪の女王を原型としていることに間違いありません。ナルニア、ことに『ライオンと魔法』は私自身の子ども時代の読書の中心に位置する作品です。私にとつて非常に大きな存在である白い魔法の元の姿である雪の女王、それは私が何かを始めるときにふさわしい「重み」を持つていたような気がしました。

ふたつは、この年の二月に、東京や千葉に大雪が降りました。私は、後日、ああ、アニメーション勉強会を始めた年には大雪が降ったんだっけなと思ひ返すようになったら、『雪の女王』を選びました。家の北側に溶け残った雪の塊を眺めながら、第一回勉強会のご案内のあて名書きをしました。

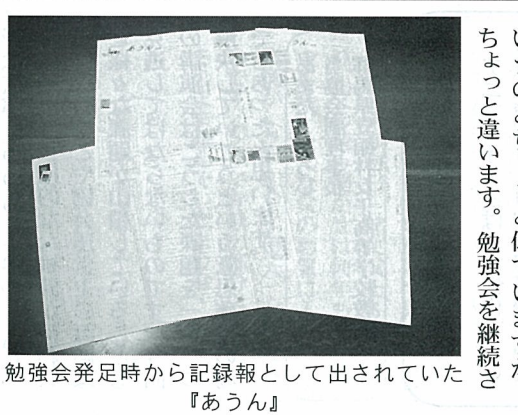


原作 アンデルセン・C.
訳者 ナオミ・ルイス・ぶん
エロール・ル・カイン え
うつみ よしこ やく
ほるぷ出版 1,400 円＋税

勉強会第1回の『雪の女王』

初めの一歩から後日の振り返りを予想して、というのは私の癖のようなものだと思ひます。そのために、勉強会の呼称にも、初回から今回まで、常に通し回数をつけて来ました。『〇月例会』とはせずに『第〇〇回』という書き、ご案内しました。そのために今回が一〇〇〇回であることも半年ほど前より皆様におわかりいただきやすかつたと思ひます。

せていくことよりも、私は、ご縁があつて皆様と一期一会のようにお目にかかれたことを何よりも大切にしたいと考えて来ました。ですから、参加者の負担、縛りを可能な限り無くして、できるだけオープンでフリーな会を目指して来ました。いつまで続けられるかは自分でも全くわかりませんでした。今だから申し上げますが、実は、五年くらい前に「五〇回まで行ったらヤメにしよう」とかなり本気で思つていた時期もありました。



勉強会発足時から記録報として出されていた『あうん』

くろぎ・ひでこ
当協会理事長
二〇〇七年社会貢献支援財団
「第五回こども読書推進賞」受賞
同年 読書コミュニケーションネット
ワーク「読み聞かせボランティア大賞」審査員となる。
著書『子どもと楽しく遊ぼう 読書へのアニメーション』（鈴木淑博 共著）学事出版、『読書へのアニメーション』（分担執筆）児童図書研究会出版部『本を通して絆をつむぐ』（秋田喜代美 共編）北大路書房

勉強会1000回に寄せて

アニメーション勉強会一〇〇〇回をむかえるにあたり、初期から勉強会に関わつてくださった方四名に寄稿していただきました。

二〇〇一年の年賀状

瀧澤 清子

二〇〇一年、「今年は何のアニメーションの勉強会を自分で始めるハメになりそうです。その折にはぜひお助けくださいませ」と書かれた黒木さんの年賀状。その年の三月十日が第一回アニメーション勉強会でした。

私がお茶の準備、当日の会計、通信発送作業をお手伝いすることになりました。もちろん勉強会の末席にも加わります。当時は子ども達も何人か参加していたので、一緒に帰る黄色い電車（総武線各停）での様子などを今はなつかしく思い出します。事情があつて、私が参加できたのは

勉強会1000回に寄せて

乗杉 宏子

勉強会百回おめでとうございます。黒木先生の笑顔とひとりひとりを受容して下さる寛容さ、そして、醸しだされる楽しく温かい雰囲気は最高です。

私の初出席は、第二十二回。以来、童心に戻つてアニメーションを楽しんでいます。

今でもその衝撃を鮮明に覚えているのは、『子犬のピピン』を作戦三十で「この本の中に〇〇は、出てきましたか？」という質問に答えた時のこと。自分が本に書いていない情景を映像化して記憶している事に気付かされ驚きました。それ以降、自分の読み・記憶の癖を知り、注意深く読むようになりました。

以来、経験した作戦が次の読みに反映されるのを感じます。異なる作戦で、異なる角度からの読みを身につけたと思ひます。

また、本に対する興味も、アニメーションだからこそ持続できました。参加者の感動や感想を伺いたいという思いで、最後まで読めたことが何度かありました。読後は、作品作者、時代背景、選書理由に思いを巡らせ、作戦六「本と私」を反映させます。私は、作品から、人生の奥深さ・新しい気付きを見つづけることが大好きで、それを皆様にお伝えするのが、勉強会の醍醐味のひとつです。

のりぎ・ひろこ

まっていた第一〇〇〇回

塚本 美樹

会報アニメーションで毎号勉強会のお知らせの記事に第何回と数字を入れないながら「もういくつね」との気分で一〇〇〇回が来るのを心待ちにしてました。

今年で九年目となる勉強会ですが最初の二年間に親子で参加してました。黒木さんは当初から『あうん』という勉強会の記録報を自主制作されていました。今回その『あうん』を引っ張り出して使用した本と作戦のリストを見ると、よくこのラインナップで小四と年長の子連れで参加してたなどちよつと驚いてしまします。予読が原則なので年長の子には絵本以外、喉をからしながら必死に読み聞かせをしていたことなども思い出します。

予読本選びと作戦とのマッチングは毎回手品を見るようでしたがここで出会った本の中には今でも心に残っている本がたくさんあり、それは子どもたちにとつても同様です。『あうん』には勉強会の詳しい報告と共に黒木さんの思いの丈がずいぶんと書かれていて、その中で本を選ぶ苦労とともに黒木基準についても述べられてました。久しぶりに読むと現在語られてることほとんど変わらな、このブレのなきが勉強会が長く続けられてきたことの大きな理由なのかな、などとも思ひます。

アニメーション勉強会と私

竹内 妙子

ウルフ・スタルクの『おじいちゃんのお笛』との出会い。初めて読んでも、思わずほろりとするそのラストのすばらしさ。物語の世界を自分の言葉で語る子ども達の姿。黒木先生が東京都大田区の小学校で行つたアニメーションの授業は、私をアニメーションの世界に引きこむことになった。授業の後の研究会で、毎月一回勉強会を開いているとお話を聞き、是非参加させてほしいとお願ひしたのがこの勉強会との出会いとなった。

第十八回アニメーション勉強会の記録が残っている。私が初めて参加した勉強会の記録だ。『ジェリコの夏』を作戦六番「本と私」でアニメーション、とのメモ。その頃は、聖書でもアニメーションをしており、『新約聖書』マタイによる福音書からこの記録も残っている。当時の参加者にはシスターがいらつしやり、聖書についてのお話を伺えたのもなつかしい思い出。

予読があるという事で、なかなか時間が取れず、まるで宿題が終わらない子どものように参加できない時もあった。しかし参加し、作戦を体験することが、何より自分が純粋に楽しいというのが長続きの一番の理由だつたと思う。たくさん本との出会いと大勢の参加者の皆様との出会いは楽しみに、これからもこの時間を大切にしていきたいと思ひます。

たけうち・たえこ
当協会会員

第二回アニマシオン読書教育セミナーの報告

『気球に乗ってどこまでも』

〜アニマシオンに夢を託して〜

天田 比呂志

ときにはなぜか大空に
旅してみたくなるものさ
気球に乗ってどこまで行こう
風に乗って野原を越えて
雲を飛び越え
どこまでも行こう
そこに何が待っているか
ランランララララ・・・
ときにはなぜか大空に
旅してみたくなるものさ
気球に乗ってどこまで行こう
星を越えて宇宙を遙か
星座の世界へ
どこまでも行こう
そこに輝く夢があるから
ララララララ

作詞：東 龍男
作曲：平吉毅州
(JASRAC作品コード
0241841818)

気球に乗ってどこまでも

会場に集まった人たちの大きな
歌声が見事なハーモニーを奏でまし
た。今回のセミナーのサブタイトル
「アニマシオンに夢を託して」のよ
うに読書へのアニマシオンを発展さ
せようという思いをどこまでも飛ば



会場全景

そうとしたものだと思いましたが、
この歌は、去る三月二十八日(土)、
NPO日本アニマシオン協会事務局
を置かせていただいた。龍馬
進学研究会の三階教室をお借りし、
第二回アニマシオン読書教育セミ
ナーを開催した最後に皆さんと歌っ
た曲です。
突然の理由により会場変更をいた
しましたので、参加いただいた方
にはご迷惑をおかけしましたが、会場
を埋め尽くす多くの方のご参加を
いただきました。



開会あいさつ

アニマシオンに夢を託して

今回のセミナーは、NPO日本ア
ニマシオン協会を創設一周年を記念
し、「読書へのアニマシオン」とは
いったい何なのか、どのようなこと
を目指しているのかを再確認する場
でもありました。また、創設一周年
を経て、協会の様子を見ていただく
こともちよよい機会でした。
それぞれ読書へのアニマシオンで
つながっている方たちです。開会
までの短い時間ながら「久しぶりで
す、その節はお世話になりました。」
「今度はお世話になります。」あの
ときのアニマシオンこともまたに好



熱演する講師

評でした。などなど。時には「〇
〇でお話をうかがいました。〇〇で
す。とても分かりやすかったです。」
とあいさつされ、お顔は覚えていて
も名前まで出ずに四苦八苦なさい
ている方もおいででしたが、和やかな
あいさつが交わされました。

アニマシオンの流れを振り返って

遠田美紀理事の開会の言葉で始ま
りました。少し緊張した黒木秀子理
事長がいつもの笑顔で話し始めまし
た。「ようこそお忙しい中……、い
つもの通り理路整然とした話が始め
りました。「アニマシオン」とはから
「読書へのアニマシオン」「子どもの
読書教育」「読書推進と読解力重視
の教育」と読書にかかわる話と「実
施風景」をDVDで観たり、実際に
使っている本を例示したりとあつと
いう間のひとときでした。読書への
アニマシオンにかかわり始めて間も
ない人にとっては、読書へのアニマ
シオン全体を分かりやすく俯瞰する
場となる一方、ずいぶん長く読書へ
のアニマシオンにかかわっている人
にとっては自身の読書へのアニマシ
オンへの理解を確認する場となり
ました。講演を聴いている人たちが
うなずいたりメモを取ったりする場



司会者と使用した図書

面が異なりながらも
皆さんが集中している様子がか
がえりました。
途中一度の休憩では、森和子理事
お手製のクッキーとお茶でさながら
交流会でした。

確かに読書へのアニマシオンの裾
野は広がりがつあります。しかし、
理論的かつ長期的な検証が行われ
ていないことや協会運営上の課題な
ど様々な課題が山積していることも
見逃してはならないものです。今回
の講演会はこうした課題を一つ一つ
解決していこうという意思確認の場
でもあったと思います。

あまだ・ひろし
当協会副理事長
群馬県立館林女子高等学校教頭

協会設立の趣旨

アニマシオンとは「活性化」とい
う意味で、ヨーロッパで青少年の文
化活動に関して広く使われてきた言
葉です。
私たちは、スペインのモンセラッ
ト・サルトさんが開発した「読書
へのアニマシオン」を学ぶグルー
プです。アニマシオンという読書
教育法を通じて、質の高い読書を
進められることを育てたいと考
えています。
協会の活動目標は、系統的、計
画的な読書教育としてのアニマシ
オンの各地での実施を支援するこ
とであり、主に以下の三つの事業
を行います。
①アニマシオン実施用の図書の貸
し出し(送料のみ利用者にご負
担いただきます)
②アニマシオン紹介のためのイベ
ント、講演会等
③アニマシオンの実施のための研
修、講師の養成

何を教える？英語教育

～リーパーすみ子氏と佐藤良明氏を囲んで～

去る3月22日(日)、飯田橋レイナービル2F会議室において「何を教える？英語教育」をテーマに茶話会が開かれました。主催・径書房、日本アニマシオン協会による会には当日24名の参加者がありました。この日は小学校で英語教育に携わっている先生方をはじめとして、さまざまな立場の方々にご参加いただき、休憩時間を挟んだ3時間の予定ではとても足りないほどの密度の濃い話し合いの場となりました。以下に会の内容をご紹介します。

三者三様の取り組みから投げかけられたこと

前半は、径書房代表取締役の原田純様のご挨拶の後全員の自己紹介から始まりました。その後、甲斐崎博史氏、深見明子氏、久埜百合氏の三人のスピーカーの方々からの報告がありました。甲斐崎氏は小学校の英語教育導入の先進取り組み指定校の様子、深見氏は公立小学校での英語活動支援員EAA(English Activity Assistant)としての現場からの声、久埜氏は長年私立小学校での英語教育に携わってきた方としての先行事例としての報告がなされました。三人の方からの話は具体的な実践報告、現場での苦労、今後への課題など多岐にわたるものでした。

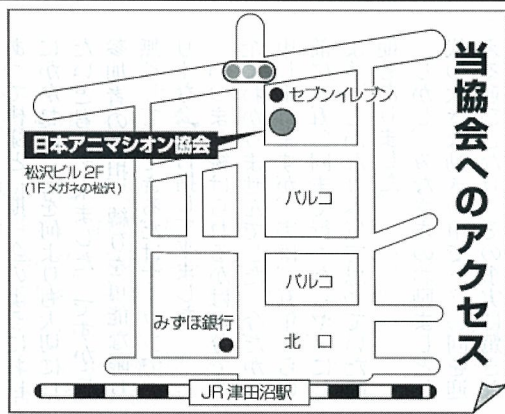
これからの英語教育を考える

休憩をはさんで後半は、リーパーすみ子氏による米国小学校での英語リーディング指導の様子をスライドをえ
て紹介していただきました。その後、佐藤良明氏から「意味のある英語教育とはどういうものか」のお話があり
ました。その後出席者全員による自由討議となりました。日本の小学校での英語教育導入の現状について現場からの
ナマの声を聞きあい、様々な立場から知恵や提言をしていく必要が話し合われ、予定した時間をオーバーしても話
が終わらないほど皆様からの発言が続きました。最後にこの会主催者であるアニマシオン協会理事長黒木秀子から
挨拶があり、たいへん熱のこもった茶話会が締めくくられました。(編集部)

- リーパーすみ子(リーパー・すみこ) 元米国立小学校図書館司書
- 佐藤 良明(さとう・よしあき) 元東大教授・アメリカ文学文化研究
- 甲斐崎博史(かいざき・ひろし) 東京都羽村市栄小学校教諭
- 深見 明子(ふかみ・あきこ) 福島県公立小学校英語活動支援員
- 久埜 百合(くの・ゆり) 中部学院大学客員教授・千葉大学教育学部非常勤講師 小学校英語教育学会(JES) 副会長 (財)語学教育研究所参事 外国語教育メディア学会(LET) 関東支部運営委員

事務所を移転しました

旧事務所の近所に引っ越ししました。
電話・FAX・メール等は変わらませ
ん。



特定非営利活動法人 日本アニマシオン協会 入会案内

【会員募集】

- 正会員 アニマシオン用図書の貸し出しを受けられます。定期的に会報をお届けします。協会主催の催しでは正会員割引があります。
- 支援会員 協会の趣旨に賛同いただき、会費を納めることで活動を支援していただけます。

【入会金・年会費】

- 正会員 入会金 2,000円、年会費 3,000円
- 支援会員 年会費 1口 50,000円 (1口以上)

【入会方法】

- 事務局までご連絡ください。(電話、FAX、メール) 協会案内と払込票を郵送いたします。
- ゆうちょ銀行にて会費をご送金ください。
- 入金確認後、事務局より会員証(会員番号記載)を郵送します。
- 毎年4月からの新年度には年会費を納入してください。(会員証は3月31日まで有効となります)

【特定非営利活動法人日本アニマシオン協会事務局】
電話 047-402-3111
FAX 047-402-3061
E-mail info@animacion.jp

入会状況

たくさんのご入会ありがとうございます。
六月十三日現在で、正会員百七十六名・支援会員七名(社)のみなさまにご入会いただきました。

「ほかの方にも紹介したい」などのご要望がありましたら、協会案内・会報をお送りしますので事務局まで遠慮なくご連絡ください。

「JPIIC読書アドバイザー養成講座」に参加して

森 和子

当協会の理事である森さんが昨年度の「JPIIC読書アドバイザー養成講座」に参加されましたので一年間の講座を通して学ばれたこと、感じられたことを報告していただきました。

三回目の応募で

私は、第十六期「JPIIC読書アドバイザー養成講座」に参加しました。受講生は、住所は、北は北海道から南は九州まで文字通り全国から、年齢は、二十代から推定七十代（お孫さんがいる方）まで、職業は、出版社、取次会社、書店、公共図書館、学校図書館（小学校から大学まで）、教員、塾教師、主婦、学生など、九割が女性という実にバラエティに富んだ百名で構成されていました。申込者多数の時には抽選にて決定ということになっているのですが、出版関係の仕事をしている人や、男性の方など優先的になっていったようです。私は三回目の応募だったのですが、やはり何回も応募したという方がかなりいました。

幅広い受講内容

昨年の七月二十五日から今年の一月三〇日にかけて、四回の計七日間のスクーリングと三回のレポート提出といったスケジュールで進行しました。内容は、古書や印刷の事から書評の書き方まで幅広く、とても盛り沢山のもの、楽しく受講しました。筑摩書房の元編集長の松田哲夫氏の講義がありました。私はほとんどテレビをみないので、「王さまのプリンチ」という番組があることすら知りませんでした。毎週土曜日朝九時半から二時までのTBSテレビで放送される生番組で、最初の一時間までに本の特集が組まれています。松田哲夫氏は、コメントーターとしてレギュラー出演されていて、「松ちゃんの今週のこの一冊」と題して毎週一冊づつお薦めの本を紹介しています。この番組の裏話や、プランチでの放送とベストセラーなどの関係について聞くことができました。私は児童書に関して、かなりアンテナを張って新刊書も目を通すよう

あり、多くの人と交流できたことも意義深いものでした。受講生で、図書館や学校関係の人は、アニメーションという言葉聞いたことがあったり、興味を持っていて、と実感しました。ぜひ今後、この講座にアニメーションも入るといいなあと思っています。

もり・かずこ
当協会理事
東京都町田市立鶴川第四小学校
図書指導員

「JPIIC読書アドバイザー養成講座」とは・・・

財団法人出版文化産業振興財団が行う、読書を通じた国民の生涯学習推進・読書活動の推進のため、平成五年よりスタートさせた講座。読書アドバイザー制度の目的として
◎読書を通して生涯学習の新たな分野を開拓する
◎読書の楽しみを研究し読書推進活動を実践する
◎読書を通して自己表現する活動の場を創造する
以上財団法人出版文化産業振興財団ホームページより www.jpica.or.jp

これってアニメーションでは??

「発達と読書」という科目で、長年乳幼児から児童期の読書傾向について研究していらした佐々木宏子氏の講義も、具体的事例を映像でたくさん見せながらのたいへん興味深いものでした。その中で、幼稚園での絵本の読み聞かせをしているものがあつたのですが、それがまさにアニメーションでした。講座後に「幼稚園で積極的にアニメーションを取り入れているのですか?」と個人的（講座中に質問する時間がなかったため）に質問したところ、アニメーションについて御存知ないというお返事でした。他にも同じような質問に来ていた方がいらして、これからアニメーションをやってみようと思つてのことでした。読み聞かせは、感覚や内容を子どもに聞いてはいけないと言われていた時代の流れから確実に変わりつつあると実感しました。講座は受講生全員の「本のはなし」やグループディスカッションなども

アニメーションの授業公開

慶應義塾普通部 鈴木淑博
(私立男子中学校)

2000年に、スペインで二週間アニメーションのセミナーを受けて以来、未熟ながら積極的にアニメーションの授業を公開してきました。人に見てもらって、忌憚のないご意見を頂戴しながら、自分自身のアニメーションとしてのあり方も少しずつ進歩してきたかなと思っております。見て下さった方々のおかげです。アニメーション協会の会員の方で、横浜の日吉までおいでくださった方も多くいらっしゃいます。

昨年は少人数の授業を持つ機会がなかったのですが、今年度は、1年生1クラス24人学級を担当しておりますので、アニメーションを既に取り入れて、授業を行っています。

1学期は、予読なしの作戦を行っていますが、2学期3学期は、予め各自に本を手渡して読んでくるアニメーションを行います。

【1学期のアニメーション】

取り上げた本は次の3冊です。

- 『おじいちゃんの口笛』 ウルフ・スタルク作
アンナ・ヘグルンド絵
菱木晃子訳 (ほるぷ出版)
- 『あの犬が好き』 シャロン・クリーチ作
金原瑞人訳 (偕成社)
- 『オフェリアと影の一座』 ミヒヤエル・エンデ文
フリードリヒ・ヘッヘルマン絵
矢川澄子訳 (岩波書店)

【2学期以降のアニメーション】

取り上げる予定の本です。

- 『無人島に生きる十六人』 須川邦彦著 (新潮文庫)
- 『あのころはフリードリヒがいた』 ハンス・ペーター・リヒター作
上田真而子訳 (岩波少年文庫)
- 『ぼくの羊をさがして』 ヴァレリー・ハブズ著
片岡しのぶ訳 (あすなろ書房)
- 『兵士ピースフル』 マイケル・モーパーゴ著
佐藤見果夢訳 (評論社)

◎あと1冊は未定

《公開の日程》

10月16日以降の毎金曜日11月27日まで。(11月6日を除く)
あと詳細は未定ですが、1月、2月の金曜日にも公開する予定です。
詳しくは、suzuki@kf.keio.ac.jpまで、お問い合わせください。お会い出来るのを楽しみにしております。

すずき・よしひろ 当協会監事
慶應義塾普通部 教諭

連載リレーエッセイ 第五回 小さい頃好きだった本

石田 みゆき

父がしてくれた読み聞かせ

私が子供の頃、毎晩寝る前、私に本を読んでくれたのは父でした。父は祖父の後を継いで大工をしていました。若いころは文学青年だったそうです。当時は職人に残業はなかったのですが、夕飯はほぼ毎家族全員で食べていました。そして、母が片付けその他の家事をしている間に私と妹と父の三人でふとんに並んで入り、父が「パパなの」ママおはなし聞かせてを一日一日話すつ、日付に合わせて読んでくれました。晩酌後の職人が読み手ですから、決して素晴らしい語りではありません。でも、私達は何となく知っている話でも毎日楽しんで、父が出かける晩はガツガツと読んで、私や妹が「卒業」した後、父の読み聞かせは何年も続いていました。そんな父のお気に入りには、職業柄か? 「大工と鬼六」だったみたいです。でも、子守歌の部分は歌でなく、そのまま読んでいたような・・・

何度でも読んでくれた祖母

日中の読み手は祖母でした。一般的な『おばあちゃんらしいおばあちゃん』で、字の読めなかった私が暗唱できるくらい、同じ本を何度でも何回も読んでくれました。もし今の私が、同じ本を読んで頼まれたら、たぶん「またそれ? これも面白いから聞いてよ」と言つて違う本を開かせようとするだろうと思います。でも祖母は、一日に何回同じ本を読まされようという文句も言わず、優しく読んでくれたのでした。当時、私の一番のお気に入りには、「注文の多い料理店」だったそうです。誰の描いた絵だったのかわかりませんが、次々と並ぶドアの様子や最後のドアの目玉が印象に残っています。謎な部分が多い話なので、今でも読むたびにいろいろ考えてしまいます。もし小さい頃の自分に会えるのなら、その謎の部分はどうとらえていたのか聞いてみたいものです。

三十年以上たっても覚えているお話

昔のことに思いを馳せていくうちに、幼稚園の頃でしょうか、毎月一巻ずつ届いていた「ドレミファブック」のことを思い出しました。一冊の本と一枚

学級文庫のおもいで

私を小学校三四年で担任してくれた先生は、どうやら図書担当だったようです。学級文庫を作ると言い出して、みんなが家から持ってきた本に背カバーやカードポケットを張りつけてくれました。かなり傷んではいませんが今でもその本「日本のゆうれい話」は残っています。自分の本を友達がたくさん借りてくれてカードに名前がどんどん増えていくのを見ると、うれしかったものでした。自分がその学級文庫を借りたかどうかは、実はあまり覚えていません。シャーロックホームズや少年探偵団など推理もののシリーズを、学校の図書館から次々と借りて読んでいたことは確かです。貸出期間が一週間あるのが、一晩で読み切つて次の日には取り替える日々でした。犯人やトリックがわかるまで読み切れないと気がなつて寝られなかったからです。こうやって思い出していくと、私のまわりにはいつも本やお話があつたのだと改めて感じました。そんな環境をつくってくれていた人々に感謝です。
(台東区立金竜小学校 教諭
いしだ・みゆき
当協会会員
東京都台東区立金竜小学校 教諭)

アニマシオン用貸出図書リスト (2009年6月現在) ※リストは対象学年別・アイウエオ順になってます。

Table with 4 columns: 小学校低学年向き, 小学校中学年向き, 小学校高学年向き, 中高生以上. Each column lists book numbers and titles.



『しょうぼう馬のマックス』小道具

『しょうぼう馬のマックス』で 作戦27番をやってみませんか? 登場人物の持ち物が揃っています。貸出できますので、ご連絡下さい。

貸出しを利用された方からのお便り

S小学校 K先生 『くまざぶろう』を使用して、2年生18人にアニマシオンをやってみました。最初はなかなか聞けない子が数人いて、半分は自分一人では動けなくなってしまいました。しかし、みんなで協力して順番を決める時になると、リーダー格の子を中心に順番を決めていき、徐々に盛り上がってきました。(作戦12番)

協会ホームページもご覧ください

http://animacion.jp/ では4月から新しいデザインで情報をお届けしております。ご覧になったご感想を、事務局まで是非お知らせください。『黒木秀子のアニマシオン日記』理事長・黒木がアニマシオンにまつわる様々な内容を日記に書いています。使用図書と作戦の話、出会った方々とのエピソードなど、アニマシオン実施のヒントが盛りだくさん。

アニメーション勉強会の報告

二〇〇九年三月十四日(土)に第九七回勉強会、四月十一日(土)に第九八回勉強会、五月九日(土)に第九九回勉強会を東京・信濃町「真生会館」で開催しました。

編集後記

0号から始まった会報も早いもので四号に、年四回発行なのでようやく一年が経過したということになります。

アニメーション勉強会の利用方法

- 1. まず協会(047-402-3111 平日13時~19時)にお電話ください。メール・Faxでも貸出申込をお受けしておりますが、必ず確認のお電話をお願いしています。
2. 事務局より料金着払いにて発送します。
3. アニメーションの実施が終わりましたら、速やかに事務局まで料金元払いでご返送ください。

勉強会のお知らせ

2001年3月に始めた「アニメーション勉強会」が当協会の母体となりました。引き続き、これまでと同じように毎月勉強会を開催いたします。どなたでも、いつでもご出席ください。

予読本の体験

『町かどのジム』 エリノア・フアージョン文 エドワード・アーデゾーニ絵 松岡享子訳 童話館出版

事務局だより

三月三十一日にNPO事業初年度を終えました。会員の皆様の一年間のご協力に厚く御礼申し上げます。

【予読本のご案内】(毎回、2か月先の予読本を決めています) 第101回 アニマシオン勉強会 7月11日(土) 予読本『ケンケンとムンムン』

(編集長・塚本美樹)